

(広域応援およびボランティア活動のベースキャンプとしての活用方策の想定例)

資料 3

利用者および活動者の視点に立った要件検討が必要

広域防災拠点求められる要件(例)
 遠隔地域から集結する広域支援部隊を収容できるスペースが必要である。
 陸・海・空などの交通機関からのアクセスが容易なこと
 災害に耐えられる施設
 震度7にも耐えられるような耐震もしくは免震構造が必要である。
 災害時の自立機能
 災害時に自給自立できるよう、エネルギー供給設備、水供給システム、廃棄物処理システム、災害対策本部職員用食料備蓄が必要である。

災害に強い自立機能として以下のようなものが挙げられる。

エネルギー供給設備	自家発電装置や以下に示す小規模分散電源を利用。 マイクロガスタービン ガスエンジンコージェネレーション 燃料電池 等 都市ガスや重油などを燃料に、エンジン・タービンによって発電機を動かして発電し、この時に発生する熱エネルギーも温度の高い方から順に、冷暖房や給湯に利用(カスケード利用)するシステムをコージェネレーションシステムという。 マイクロガスタービンおよびガスエンジンコージェネレーションは、コージェネレーションシステムと称される。
水供給システム	断水用貯水槽ならびに貯水槽の水浄化システムを利用。
廃棄物処理システム	活動によって生じる各種廃棄物の処理システムを利用。

必要とされる設備として以下のようなものが挙げられる。

緊急消防援助隊	・滞在施設(宿泊施設、厨房、浴室もしくはシャワー室)、会議室、談話室
ボランティア・コーディネーター	・滞在施設(宿泊施設、厨房、浴室もしくはシャワー室)、会議室、談話室 ・ボランティアセンターへの連絡のための情報伝達設備
ボランティア	・滞在施設(宿泊施設、厨房、浴室もしくはシャワー室)、会議室、談話室 ・ボランティアセンターへの連絡のための情報伝達設備